

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛驒特別支援学校高山日赤分校

学校番号	119B
------	------

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～
評価する領域・分野	防災教育
現状及びアンケートの結果分析等	当校は車椅子の児童生徒が多く、災害時の避難、特に2階からの避難については個々の状態に応じた避難方法を考え、訓練を実施している。また、防災士に訓練を見学してもらい、その都度助言をいただき改善を図ってきている。アンケート結果では、緊急時対応や防災への取組について肯定的な評価を得ているが、災害時の迅速な避難については課題があり、改善の必要性がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家と連携し、非常時の体制の確認や訓練を行う。 ・ 地域と連携した体制や対応を検討する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健安全部を中心とした災害時対応の確認や訓練の実施 ・ P T Aと連携した防災についての研修
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家参加で校内安全点検や避難体制の確認、訓練を行う。 ・ 非常食体験を行う。 ・ 地域の避難所を見学したり、防災訓練に参加したりする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の助言を受け、非常時の体制や避難について見直すことができたか。 ・ 地域の避難所や避難体制を確認することができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 命を守る訓練の様子を消防士や防災士に見ていただき、訓練後、改善点等の指導をいただき、対応の改善を図った。また、地域の協力を得た避難体制を考えていくために、まちづくり協議会の方にも見学していただいた。 ・ P T A活動で、防災士から「災害の備え、何をしていますか」というテーマで話を聞いたり、地域の避難所の見学を行ったりした、また、地域の防災訓練の様子を報告し、防災士も交えて意見交流を行った。 ・ 備蓄品として学校に置いている非常食を食べてみることで、個々の児童生徒が食べやすい非常食について、保護者と確認した。
評価の視点	評価
① 専門家の助言を受けて、避難体制の改善を図ることができたか。	(A) B C D
② 保護者と共に防災について考えることができたか。	A (B) C D
③ 地域と連携した防災体制を検討することができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○車椅子使用の児童生徒それぞれの安全な避難方法について、専門家からの助言を踏まえ、職員で検討し訓練をすることができた。また、実際の状況を想定した訓練を計画、実施し、防災への取組を進めることができた。 ○専門家を交えての研修会を通して、保護者の防災への意識を高めることができた。 ▲研修や訓練を通して、児童生徒、保護者、職員の一層の防災意識の向上を図る。 ▲地域と協力した緊急時対応の検討や、避難体制の整備を進める。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的に様々な状況を想定し、対応の検討や訓練を実施する。また、防災についての研修を行う。 ・ 地域の方に学校の訓練に参加していただき、協力体制を構築していく。

学校関係者評価（令和5年2月28日実施）

意見・要望・評価等

- ・ 専門家に訓練を見て指導をいただくことは、安心になり、また心強い。
- ・ まちづくり協議会をとおして地域と連携していることで、安心できる体制になっていると思う。
- ・ 複数回の定期的、継続的な訓練と、その都度の見直し、地域との連携を引き続きお願いしたい。
- ・ 発災時の状況の細かな想定をし、学校でできること、地域等に依頼したいこと等を明確にすることで、地域との協力体制が構築しやすくなると思う。
- ・ 来年度、人的支援について、近所、地域の皆様へのアプローチを具体化したい。
- ・ 「自分にできることはないか」「困っている人を助けたい」と考えている人はいると思うので、そうした人々を見つけることを一緒に考えていけたらと思う。